

子育て世代からの期待 大森山動物園に望むこと



陽だまりサロン●代表 若松 亜紀

現在子育ての立場から、また、実際に動物園を利用している立場から、大森山動物園に期待することを述べてみたい。

大森山動物園に期待することは、次の3点ある。

- 1 命を感じる場であること
- 2 子どもの輝きを引き出す場であること
- 3 土の上で遊べる場であること

シンポジストの方々の講話を伺うと、動物の生命に関する話しには説得力があるし、胸を打たれるものもある。最近の秋田県は、自ら命を絶つ人がいたり、我が子を殺める事件もあった。こうした中であって、命の大切さを伝える活動には意義があるし、その重要性も増している。

自分自身は多くの親と接する仕事をしており、この痛ましい事件の後には特に命の大切さを伝えたいという気持ちが強まった。また、自分自身も流産の後に出産した経験を持っている。死産を経験した人や生まれた赤ちゃんを亡くした人と接する機会もある。ひとつの命が生まれ、その命が生き続けることは決して当たり前のことではなく、とても有り難いことだと考えている。自分の子どもをこの手に抱ける喜びは、奇跡かもしれないとさえ感じる。



仕事柄、幼稚園などの保護者会などで話しをさせてもらう機会があるが、命の大切さを伝えたいと思っても、プライバシーの問題などがあり、人間をベースに話すには限界がある。心で感じたことを誰かが言葉にしてくれれば、腑に落ちることもあるし、動物であれば、伝えやすいこともある。動物を通して見える命の尊さや素晴らしさを伝えて欲しい。

さて、子どもに自信をつけたり、子どもの個性を伸ばしていくということは、その子どもが持つ固有の価値を見いだすことである。

「キラッ」と光る何かを見つけ、引き出すことである。これは、学校に限ったものではないし、どこで見つかるかも分からない。その子どもが持っている良さや可能性を誰かが見つけ、引き出してやらなければならない。

動物園であれば、動物という私達とは別の視点から見つかる固有の価値があるかもしれない。ミルヴェ教室や遠足などがそうした機会となり得るのではないかな。

いろいろな機会に動物園について聞くと、「安心して子どもを走り回らせることができる、貴重な場」という意見を多く耳にする。動物園本来の目的は、動物を見る(見せる)ことであるのだが、これを一步進めて、「土の上で、ワクワクして、遊べる場」であってほしい。

アスファルトの上ではなく、「土の上」であることが重要である。「土の上」は単純に「気持ちがいい」ということもあるが、「土の上」にいるとエネルギーをもらって元気になれる。

また、既存の遊具ではなく、子ども達が自分自身で発展させていける遊具があればなお嬉しい。大森山の遊園地が再開されるというニュースや、新たに大型遊具が設置されるという報道を耳にしているが、人工的が遊具よりも、自分で遊びを発展できるものがあれば